

平成16年度を振り返って 地域づくりに向けて熱心に取り組む



消防団のリレー競技

今年度の文化事業も地域の多くの方々の参加と協力で盛り上げて頂きありがとうございました。伝統ある市民大学講座も二十六回を経過し、今年度は政治学習、石窯づくり、竜丘の歴史と土壌につ

本年度もスポーツを通じた親睦交流とニュースポーツの普及を方針として、綱引き、ソフトバレー、ドッジボール等の分館対抗大会と誰でも楽しめるペタンクを行いました。各分館の皆様の手集め、準備等のご協力によりこれらの事業を無事終了できました。最大の事業である市民運動会は天候が悪く開催が危

平成十六年度の公民館諸事業が、分館並びに各委員会の真摯な取り組みにより、計画通り初期の目的を果して締めることができることは有難いこととあります。地域の方々の公民館による温かいご協力あっての御陰であります。

顧みれば、年度頭初において既報されていた「地域自治組織構想と公民館のあり方」が話題となりました。地域のあり方と公民館の将来を具体的に構築する絶好の機会と受けとめ、委員会事業の実施に当って留意してまいりました。

基本的には「社会教育の担い手としての、公民館の立場を堅持していかなければ、地域づくりの根底となる、地域教育力が低下してしまう」という危惧を抱い

て、各委員会のみならず、地域の方々とも論じ合い実践してまいりました。各事業が価値の高いものとして盛り上がりつつあるなか、高上りしたのがその為であります。

今日の社会情勢は、驚くべき速さで変化しており、それに伴い地域課題も多様性を表しています。公民館は、改めて言うまでもなく住みよい地域づくりに向けて、地域課題へ焦点を絞って実践を推進してまいり、遂行していく必要があります。次年度に一層の飛躍を期します。

文化委員長の
下平 武彦

文化祭、ニューイヤークンサートは多くの団体に参加頂き、内容の濃い充実したものとなりました。今、白井秘境遊歩道、古墳公園、財産区有林(里山)等の整備も進んでいます。竜丘の自然・文化・歴史を生かし、各種団体と連携して今後も事業を進めていきたいと思っておりますので、地域の皆様のご参加とご協力をお願い申し上げます。

公民館長 **木下 陸奥**

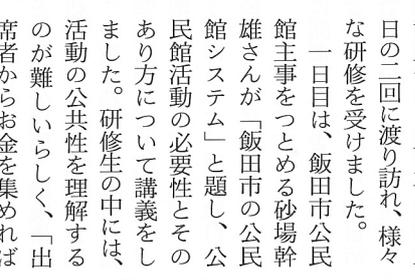
去る二月二十七日から三月四日までの日程で、JICA(国際協力機構)が主催する「参加型地域社会開発」の参加者十二名が飯田を訪れました。竜丘へは、三月一日と三日の二回に渡り訪れ、様々な研修を受けました。

一日目は、飯田市公民館主事をつとめる砂場幹雄さんが「飯田市の公民館システム」と題し、公民館活動の必要性とそのあり方について講義をされました。研修生の中には、活動の公共性を理解するのが難しいらしく、「出席者からお金を集めれば

いって学ぶことができました。今後幅広い分野からテーマを取り上げていきます。文化祭、ニューイヤークンサートは多くの団体に参加頂き、内容の濃い充実したものとなりました。今、白井秘境遊歩道、古墳公園、財産区有林(里山)等の整備も進んでいます。竜丘の自然・文化・歴史を生かし、各種団体と連携して今後も事業を進めていきたいと思っておりますので、地域の皆様のご参加とご協力をお願い申し上げます。

公民館長 **清水 美彦**

本年度もスポーツを通じた親睦交流とニュースポーツの普及を方針として、綱引き、ソフトバレー、ドッジボール等の分館対抗大会と誰でも楽しめるペタンクを行いました。各分館の皆様の手集め、準備等のご協力によりこれらの事業を無事終了できました。最大の事業である市民運動会は天候が悪く開催が危



文化祭企画展の一コマ

「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

現在、公民館のあり方が検討される中、当地区の活動を聞いています。これは、0歳児学級の様子を見学しました。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館長 **木下 陸奥**

去る二月二十七日から三月四日までの日程で、JICA(国際協力機構)が主催する「参加型地域社会開発」の参加者十二名が飯田を訪れました。竜丘へは、三月一日と三日の二回に渡り訪れ、様々な研修を受けました。

一日目は、飯田市公民館主事をつとめる砂場幹雄さんが「飯田市の公民館システム」と題し、公民館活動の必要性とそのあり方について講義をされました。研修生の中には、活動の公共性を理解するのが難しいらしく、「出席者からお金を集めれば

いって学ぶことができました。今後幅広い分野からテーマを取り上げていきます。文化祭、ニューイヤークンサートは多くの団体に参加頂き、内容の濃い充実したものとなりました。今、白井秘境遊歩道、古墳公園、財産区有林(里山)等の整備も進んでいます。竜丘の自然・文化・歴史を生かし、各種団体と連携して今後も事業を進めていきたいと思っておりますので、地域の皆様のご参加とご協力をお願い申し上げます。

公民館長 **清水 美彦**

本年度もスポーツを通じた親睦交流とニュースポーツの普及を方針として、綱引き、ソフトバレー、ドッジボール等の分館対抗大会と誰でも楽しめるペタンクを行いました。各分館の皆様の手集め、準備等のご協力によりこれらの事業を無事終了できました。最大の事業である市民運動会は天候が悪く開催が危

人口	6,858人
男子	3,372人
女子	3,486人
世帯数	2,179戸
(17年3月末現在)	

JICA研修生 竜丘の活動を熱心に学ぶ

去る二月二十七日から三月四日までの日程で、JICA(国際協力機構)が主催する「参加型地域社会開発」の参加者十二名が飯田を訪れました。竜丘へは、三月一日と三日の二回に渡り訪れ、様々な研修を受けました。

一日目は、飯田市公民館主事をつとめる砂場幹雄さんが「飯田市の公民館システム」と題し、公民館活動の必要性とそのあり方について講義をされました。研修生の中には、活動の公共性を理解するのが難しいらしく、「出席者からお金を集めれば

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。



文化祭 農家薬仕事の展示

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

地域の自然・文化財の整備へ 自治会が中心に活躍

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

公民館地区は、昨年四月から公民館主催の0歳児学級を開いています。これは、「地域も一緒に子育てをしよう」という主旨で、市の保育士と保健師の協力を得て、毎年JICAの研修生が訪れるほど、公民館は大変重要なものだと思っております。

ヤフー
日増しに光が濃くなり、風の冷たさもゆるんで来始めると、心配になるのが、「花粉」。今年も例外ではなく早速花粉症に悩まされ始めた人が増えて来た。なんと今年は昨年の何十倍のスギ花粉が飛ぶと発表されている。毎日の天気予報と一緒に花粉情報も見逃さずにチェックして出掛ける人も多いのではないのでしょうか。町中でも職場中でも顔マスクで覆い目だけ見えている人をよく見掛ける。

症状を聞くと「目がかゆい」「鼻水がとまらない」「頭が重い」など、人によって症状はまちまちらしいが、とにかく辛くて外に出るのが嫌になる程らしい。

テレビや、雑誌などにもその対策法が紹介されたり、薬局店にも点眼薬、軟膏、症状緩和商品が並べられている。

あるニュースでは、今のところ花粉症を治す特效薬というものは無く、自分に合う対策をするしか無いと伝えていた。又その中で、スギの木から花粉の飛散しないものを研究し試験植樹している様子も紹介されていた。

ある雑誌には「花粉症の症状を軽減するには、体内に入る花粉を少なくするのが基本で、外出する時は、できるだけ体に花粉が付かない様にして、花粉を家に持ち込まない工夫が必要だ」と書かれていた。外出時には、マスクをしメガネをかけるなどして、自分に合った対策法で工夫し、自分に合った医薬品、アイデアグッズを利用する事でこのイヤな季節を乗り切りましょう。

飯田市公民館大会

地域の自立に役立つ公民館活動

～「大人の学校」の実践から学ぶ～



これからの公民館のはたす役割、教育力の向上と公民館、牧野光明 飯田市長

全体会で、大会長あいさつに続き、木下竜丘公民館長から基調提案が行われ、公民館の活動が評価される一方、近年、急激な社会の変化に伴い公民館のあり方が問われるようになってきました。今まで培ってきた公民館を大切にしながら、新しい公民館の役割について、提案がなされました。公民館の役割を「地域の課題をお互いに学び合い、心の通い合う身近な地域づくりをするなかで、地域の教育力を高めること」としました。これは、教育とは、学校教育だけでなく、子育てや地域の人の関わり、教ええられるなど、人の成長の過程、様々な関わり、人との絆が弱くなりつつある中、「郷土を理解し親しみを深め、誇りをもつ学び」「地域課題を共有し、学習を通じて

第四十二回飯田市公民館大会が二月二十日に飯田市公民館で開催されました。「新しい公民館の創造」をテーマに住民自治から子育て、地域スポーツなど幅広い内容で公民館の意義や活動について話し合いました。

ら、新しい公民館の役割について、提案がなされました。公民館の役割を「地域の課題をお互いに学び合い、心の通い合う身近な地域づくりをするなかで、地域の教育力を高めること」としました。これは、教育とは、学校教育だけでなく、子育てや地域の人の関わり、教ええられるなど、人の成長の過程、様々な関わり、人との絆が弱くなりつつある中、「郷土を理解し親しみを深め、誇りをもつ学び」「地域課題を共有し、学習を通じて

お互いに知り合ったりして学ぶのです。事業のあとの慰労会「慰労会をやる為に事業をしていく」と思えるくらいです。が、このプロセスもまた市民の「飲みニケーション」ならぬコミュニケーションを保つのに大切です。

分館長 小林 泉

共に、これからは地域で人材の育成をすることが大切であると話されたことが印象的でした。

全体会の後、六つの分科会に分かれ、第一分科会では「住民自治力を培う公民館」をテーマに「大人の学校の実践を通して」と題し、運営委員長の塩澤義男さん(竜丘)が実践発表を行いました。十年にわたる活動や、地域で認知され、学級生が誇りを持ち活動し生き甲斐に繋がっている様子などを紹介しました。会場からはその熱意に感心する声も聞かれました。

価値観や生活様式の多様な時代の流れに適切に対応するため、改めて原点に立ち戻り、公民館の重要性や必要性などを話し合う大会となりました。

公民館は建物や組織ではなく、地域の人たちが活動する中で作り上げていくものだと思われました。地域で生き生きと活動することが、地域の自立に役立つ、子どもたちの育成に繋がるものだと思います。一緒に手を組んで頑張りたいものです。

「新たな公民館ビジョン」を作成し、さらなる発展を期して行きたいものです。公民館が地域で果たす役割が多いことから、今後は

さらに、地域の団体や関係機関と協調し、一体感を持って地域づくりをして行かなければと思います。

少年剣道クラブ 創立三十五周年を記念して

指導者 牧内利郎

竜丘少年剣道クラブ発足三十五周年記念大会が去る二月二十日に竜丘小学校体育館にて、飯伊剣道連盟原田先生を始め、関係各位のご来賓を賜り、盛大に開催されましたこと、深く感謝申し上げます。

発足当初は、竜丘駐在の浦野氏が中心となり、故橋本玄信様、市瀬時保様、下平嘉代様など多くの方のご尽力により防具等揃えて頂きました。南信漬物社長林様からもご寄付を頂き、用具も充実し稽古に励むことができました。

現在は、小学一年生から二十名程の児童が、厳しい冬の稽古に励んでいます。剣道は防具が重い、

当時の指導者は桐林の故佐々木誠一先生を始め、各方面から有能な先生方が、ご指導くださり、竜丘剣道クラブの基盤を作って頂いたと思います。当時は四年生から中学生まで、五、六十名が在籍し、多勢の豆剣士が育ち活躍していました。

夏は臭い、冬は素足で冷たい等と、とかく敬遠されがちですが、厳しい稽古ゆえ、気・剣・体が培われるものと思います。この度、記念事業に尽力賜りました父母の皆様、関係の方々にお礼申し上げますと共に、今後ともよろしくお願致します。



分館紹介

私が長野原の公民館活動に携わったのは九三年に、三十六年間住み慣れた大坂からUターンして五年後の九八年に分館長として関わったのが始まりでした。

私の子供のころの長野原は六、七十戸位でしたが今はプラス三百戸、この三〇〇戸が今の長野原の現状です。お陰で長野原は大変若返っています。農家中心からサラリーマン中心へと変わってきていますので、伝統行事の日程も日にち主体から曜日主体に変わらざるを得なくなっています。

こうした状況の中で地域

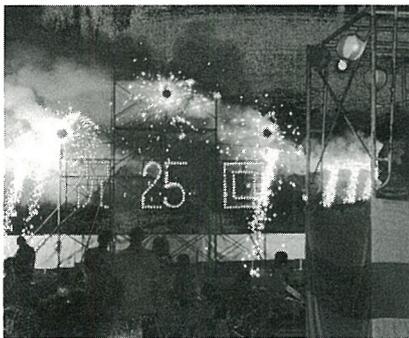
分館は地域に根ざした遊びの文化

公民館長野原分館

公民館活動に携わったのは九三年に、三十六年間住み慣れた大坂からUターンして五年後の九八年に分館長として関わったのが始まりでした。

私の子供のころの長野原は六、七十戸位でしたが今はプラス三百戸、この三〇〇戸が今の長野原の現状です。お陰で長野原は大変若返っています。農家中心からサラリーマン中心へと変わってきていますので、伝統行事の日程も日にち主体から曜日主体に変わらざるを得なくなっています。

こうした状況の中で地域



25回を数える長野原

「地域自治組織」の研究すすむ

昨年末に竜丘自治協議会をはじめ公民館・環境衛生組合などの関係団体が参加する竜丘地区の地域自治組織検討委員会が組織され、地域の団体や関係機関のあり方について、現在独自に研究を行っています。

第一回は、昨年の十二月に開催され、委員長に自治会長を、副委員長に自治会長と公民館長を選出し、関係団体より現状や課題について各々報告がありました。各機関は地区と支部の関係、公民館は本館と分館のあり方等について意見が交わされました。

第二回は、今年一月に行われ、関係団体の整理統合の可否等について協議されました。その中で、組織がバラバラにできてきたので、お互いの関係が統一さ

お互いに知り合ったりして学ぶのです。事業のあとの慰労会「慰労会をやる為に事業をしていく」と思えるくらいです。が、このプロセスもまた市民の「飲みニケーション」ならぬコミュニケーションを保つのに大切です。

分館長 小林 泉

親子スキーツアーに参加して

桐林 久保田 文男

今年、公民館の親子スキーツアーに子どもと参加して通算七回目となります。七回のうちには親子四人で参加したこともありましたが、子どもが小さい時はそり遊びとスキーと両方だったりもしました。親としては少々アルコールも入っているものですから体力的にとっても大変でした。

公民館の役員の時、子どもを外で遊ばせて、暖かい部屋で役員と保護者の方々と車座になって酒盛りをして大ひんしゅくを買ったことが懐かしく思い出されます。

団体行動ではありませんが、バスに乗って行けば、スキー場まで連れて行ってくれて、

参加者全員におやつを配ってくれ、なおかつ、大人にはお酒も出してくれて最高でした。普段、語り合ったり、触れ合ったりする機会が少ない親子が一日同じ時間を共有でき、同じ汗をかいて、とっても素敵な時間を過ごせたと思っております。スキーも間が空いてしまつて出て来ると不安でしたが、何とか体が覚えていてくれて、親子としての威厳を保つことができ良かったです。自分から子ども

